





世界史 B 問題

はじめに、これを読むこと。

(注意事項)

1. この問題用紙は 11 ページある。ただし、ページ番号のない白紙はページ数に含まれない。
2. これは、世界史 B の問題である。解答用紙が出願時に選択した科目であるかどうか確認の上、解答すること。
3. 解答用紙の所定の欄に、必ず氏名を記入すること。
4. 解答用紙には受験番号が印刷されているので、受験番号が正しいかどうか、受験票と照合し確認すること。
5. 解答はすべて「解答用紙」の解答欄に記入またはマークすること。解答欄以外のところには何も記入しないこと。
6. 解答は、必ず鉛筆またはシャープペンシル(いずれも HB・黒)で記入すること。
7. 訂正は消しゴムできれいに消し、消しくずを残さないこと。
8. 解答用紙は、絶対に汚したり折り曲げたりしないこと。
9. 文字は一点一画まで正確に書くこと。
10. 解答用紙は持ちかえらないこと。
11. この問題用紙は必ず持ちかえること。
12. 試験時間は 60 分である。
13. マークの記入例

良い例	悪い例
	  

〔 I 〕 次の文章を読み、空欄(ア～キ)に当てはまる語句を解答欄に記入しなさい。また、下線部(1～3)に対応する設問(1～3)に答えなさい。

ヨーロッパ中世芸術の至宝の一つであるタピスリー「貴婦人と一角獣」が最近日本で初公開されたことは記憶に新しい。1500年頃にフランドル地方⁽¹⁾で制作されたとされるこの作品は、19世紀以降、メリメやジョルジュ・サンド、リルケといった文筆家によって言及されてきた。6連作のこのタピスリーすべてに登場する一角獣は伝説上の怪物で、とりわけ女性に連れられて幻想的に、そして優雅に描かれることが中世には好まれたようだ。

我々人間の想像力はこれまで一角獣のみでなく、ドラゴンやケンタウロス、メデューサなどといったさまざまな怪物を生み出してきた。だが、古代ギリシア、ローマにおいて怪物は単なる想像上のものではなく、神、そして人間の世界と協和する実在の生き物であると考えられていた。その一方で、ギリシアの哲学者で「万学の祖」と呼ばれた **ア** は、幻想怪物とは異なるものの、「異形動物」や「異形人間」の起りについて『動物発生論』のなかで論じている。この考えは、2世紀に解剖学・生理学の著作を残したギリシア人医師 **イ** や、10世紀末から11世紀初頭に活躍し『医学典範』を著したイスラーム哲学者 **ウ** を通してルネサンス期の文化へと受け継がれていく。しかし、怪物論としてそのさがけとなった著作はプリニウスの『**エ**』であろう。彼は一角獣をインドの^{どうしや} 獐猛な陸棲動物であると記録している。また、古今東西の数々の怪物たちを紹介しており、なかでも著者自身の実体験として綴られた怪物人種の目撃についての記述は非常に興味深い。

キリスト教がローマの国教となると、キリスト教の教義に則った怪物観が現われるようになる。北アフリカの司教であった教父 **オ** は、著書『神の国』の中で数々の怪物人種を列挙し、みなアダムに起源を有するとしている。中世半ばになると⁽²⁾ ロマネスク様式の教会や修道院の壁面や柱頭、写本やタピスリー、紋章、さらには騎士道物語などの文学作品のなかで怪物たちは息づいてくるようになる。

しかし一連の旅行記、動物誌、医学書などに加えて上記のような芸術作品や教

会装飾をとおして紹介されてきたこのような怪物観は、15世紀末以降になると、印刷技術の普及、そしてそれまで知られていなかった地域とヨーロッパ人が⁽³⁾接触することで変わっていくことになる。今日でいうカリブ海地域や中米に四度におわって赴き航海日誌や書簡を記したコロンブスは、それまで不確かだった怪物像を明確にすると同時に怪物から伝統的な未開のイメージを剥離し、自分が実際に訪れた地に関する記述では怪物人種の存在を否定している。

その一方で、宮廷愛やキリスト教信仰心、そして騎士の理想を描き続けた騎士道物語は、そのころになると現実にそぐわないいかかわしい書物であると考えられるようになりはじめ、このジャンルのパロディーとして、ラプレーが巨人を題材に『ガルガンチュアとパンタグリユエルのお話』を著している。カが著した『ドン=キホーテ』においても主人公の妄想の世界でのみ存在する怪物たちが描かれている。

18世紀から19世紀にかけて分類学が確立してくると、ついにはこのような怪物は実在する生き物として語られなくなる。動植物にかんする分類学の祖として知られるスウェーデンの植物学者キは、実在する動物の特徴を怪物のそれと対比し、分類呼称を編み出していった。だが、想像上の幻想的生物として位置づけられた彼らが人間界から引き離されることはない。今でも数々の文学作品のなかで活躍し、またヨーロッパの諸都市の祝祭行事では欠かせない存在として張り子となり街中を練り歩くのである。

設問 1 フランドル地方にかんする記述として誤っているものをひとつ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。

- A. 中世になるとガン(ヘント)やブリュージュといった都市は毛織物産業で繁栄した。
- B. 北ドイツで結成され、北ヨーロッパ商業圏を支配したハンザ同盟はブリュージュに在外商館を設立した。
- C. フランスとイギリスとの間に起こった百年戦争の一因は、両国によるフランドル地方の支配をめぐる対立にあった。
- D. フランスは 16 世紀半ばに支配していたこの地方をカトリック化しようとしたが、激しい抵抗にあった。

設問 2 次の建造物のうち、ロマネスク様式の代表的建築物であるものをひとつ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。

- A. アミアン大聖堂
- B. シャトル大聖堂
- C. シュパイヤー大聖堂
- D. ハギア=ソフィア聖堂

設問 3 印刷技術および製紙法に関連する記述として誤っているものをひとつ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。

- A. 合金活字を用いた活版印刷のおかげで、マルティン=ルターの九十五カ条の論題は短期間でドイツ各地に広まった。
- B. 漢代に蔡倫によって改良された製紙法は、ニハーヴァンドの戦いを機に西伝した。
- C. イスラーム世界の主要都市サマルカンド、バグダードでは 8 世紀半ば以降、製紙工場が建設された。
- D. 印刷技術や製紙法が普及するにつれ、それまでの装飾写本のような豪華な書物の生産文化は次第に廃れていった。

〔Ⅱ〕 次の文章を読み、空欄(ア～オ)に当てはまる語句を解答欄に記入しなさい。また、下線部(1～5)に対応する設問(1～5)に答えなさい。

ドイツ北東部に位置するブランデンブルク＝プロイセンは、17世紀から18世紀にかけて飛躍的に勢力を伸ばした新興国の一つである。この国の中核となる地域を形成したブランデンブルク選帝侯国とプロイセン公国は、かつては辺境の小国に過ぎない存在だったが、17世紀初頭、この二カ国が一つに結びつく機会が到来した。15世紀以来ブランデンブルク選帝侯国を治めていた 家が、1618年に東方のプロイセン公国を相続によって獲得し、ここにブランデンブルク＝プロイセンの礎が築かれたのである。

1640年に即位したフリードリヒ＝ヴィルヘルム大選帝侯の時代に、ブランデンブルク＝プロイセンの領土はさらに拡大した。もともと、エルベ川以東の領地では と呼ばれる地主貴族の勢力が強く、彼らが 家の支配に容易に従わないという問題もあった。そこで大選帝侯は、権力国家としての基盤を固めるべく、軍事力の増強に重点を置いた国家運営に着手することになった。彼がまず最初に取り組んだのが、常備軍の創設であった。大選帝侯は戦時に集めた傭兵軍を解散させず、その武力を背景に地主貴族と協定を結んで租税徴収の権利を彼らから奪うと、その税収によって常備軍の維持費を賄い、平時も維持される軍隊を作り上げることに成功したのである。また彼は、人口増加と産業の育成を通して税収の増加をはかるため、入植政策も積極的に採り入れた。1685年にフランスでナントの勅令が廃止され、大量の が国外に追放されたとき、彼らの受け入れ先の一つになったのがブランデンブルクであった。17世紀末までに約二万人もの が領内に移住してきたと言われるが、その大半は専門的技術を身につけた商工業者であったため、彼らの存在はその後の経済発展に大きな役割を果たしたのである。

大選帝侯の没後、あとを継いだ選帝侯フリードリヒ3世の時代にブランデンブルク＝プロイセンは王国に昇格した。スペイン継承戦争が目前に迫った1701年1月、皇帝軍に味方することを条件に王を名乗ることを許されたフリードリヒ3世は初代プロイセン王フリードリヒ1世となった。ただし、彼がここで獲得した

のはあくまでも王の称号に過ぎず、必ずしも実質を伴うものではなかった。領土は依然として飛び地のままであったし、地方では **イ** がその存在感をますます高めていた。この時代の地主貴族たちは、大選帝侯の時代に軍事税を承認した見返りに農民に対する絶大な支配権を認められていたこともあって、国王の命令に従わない反抗的で自立的な勢力を形成していたのである。

そこに登場したのが、1713年に新国王として即位した **エ** であるが、この「軍隊王」の **イ** 対策は強引かつ巧妙なものであった。**エ** は地主貴族たちの子弟をむりやり軍隊に入れて常備軍の将校として養成する一方、彼らに対して国家第一の身分という栄誉を与えることによって、反抗的な貴族勢力を巧みに軍事国家体制の中に組み込んでいったのである。例えば1733年に導入された徴兵区制度は、同一徴兵区内の貴族を将校とし、農民を兵士とした制度であったが、この軍制改革も、農村における地主貴族と農民の間の支配＝従属関係⁽³⁾を軍隊においてそのまま活用できるという点で有効だったと言える。また彼は、貴族の将校化を推進するとともに、彼らを高級官僚として登用することで、軍事国家を支える行政官僚組織の整備も図った。**エ** は、こうした諸改革を通じて、その在位期間にプロイセンの常備軍を四万人から八万人に増強することに成功したのである。

そして、この強力な軍隊を実際に率いてプロイセンをヨーロッパ列強の地位にまで押し上げたのが、「軍隊王」の息子フリードリヒ2世(大王)であった。彼はフランスの啓蒙思想家 **オ** の影響下に『反マキャヴェリ論』を著した文人としても知られるが、王として即位してからはむしろマキャヴェリズムを実践した。1740年に即位するやいなや、彼はハプスブルク家の継承問題につけこんでシュレジエンに兵を進め、オーストリア継承戦争の結果、この地を獲得することに成功する。さらに1756年、オーストリア・ロシア・フランスによる対プロイセン包囲網が形成されると、それを察知したフリードリヒ2世は先制攻撃を仕掛けて七年戦争の口火を切った。そして七年戦争の結果、プロイセンによるシュレジエン領有が最終的に確認されることになったのである。この2つの戦争を通じて大⁽⁴⁾国に対抗できる力を見せつけたプロイセンは、その後、⁽⁵⁾3回にわたって行われたポーランド分割によって版図をさらに広げ、ヨーロッパ五強体制の一翼を担う存在にのし上がっていくことになる。

設問 1 プロイセン公国の成り立ち、およびその地域にかんする説明のうち誤っているものをひとつ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。

- A. プロイセンという呼称は、かつてこの地域に住んでいたバルト語系先住民の名前に由来する。
- B. この国は、第3回十字軍の際に結成されたドイツ騎士団が、13世紀にこの地を征服して築いたドイツ騎士団領に起源をもつ。
- C. 16世紀の宗教改革期に最後のドイツ騎士団長が新教に改宗し、領地を世俗化してプロイセン公国が成立した。
- D. プロイセン公国の首都ベルリンは文化の中心地として栄え、やがてこの都市はカントをはじめとする多くの文化人を輩出した。

設問 2 スペイン継承戦争の原因と、その後締結された条約にかんする説明のうち誤っているものをひとつ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。

- A. スペイン=ハプスブルク家のカルロス2世が跡継ぎを残さずに亡くなり、ルイ14世が孫にスペイン王位を継承させようとしたため、ブルボン朝フランスの強大化を恐れたイギリス、オーストリア、オランダが同盟してフランスとスペインに宣戦布告した。
- B. 1713年にユトレヒト条約が締結され、フランスとスペインの両国が永遠に合邦しないことを条件に、フェリペ5世のスペイン王位継承が認められた。
- C. ユトレヒト条約によって、イギリスはフランスからジブラルタルやミノルカ島を得、スペインからはニューファンドランドやハドソン湾地方などを獲得した。
- D. 1714年、オーストリアはフランスとラシュタット条約を結んでスペイン領ネーデルラント、ミラノ、ナポリ、サルデーニャを獲得し、この条約によってスペイン継承戦争に最終的な終止符が打たれた。

設問 3 近世以降、エルベ川以東の地主貴族たちは、自由民だった農民たちを農奴化し、彼らに賦役労働を課して領地を自ら経営していたが、このような封建的支配関係に基づく農場経営形態のことを何と呼ぶか。解答欄に記入しなさい。

設問 4 この2つの戦争と連動する形で、同時期に北米大陸とインドで英仏間の植民地争奪戦が起こった。以下の戦争の中でそれに当てはまらないものをひとつ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。

- A. アン女王戦争
- B. フレンチ＝インディアン戦争
- C. カーナティック戦争
- D. ブラッシーの戦い

設問 5 下線部(5)にかんする説明のうち誤っているものをひとつ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。

- A. 1772年の第1回ポーランド分割には、フリードリヒ2世のプロイセン、エカチェリーナ2世のロシア、マリア＝テレジア(およびヨーゼフ2世)のオーストリアの三カ国が参加した。
- B. 1793年、プロイセンとオーストリアの二カ国がフランス革命によって生じたヨーロッパ国際政治の混乱に乗じて第2回ポーランド分割を強行した。
- C. かつてアメリカ独立戦争にも参加したポーランドの軍人コシュューシコは、義勇軍を結成して第2回ポーランド分割に反対する抵抗運動を組織したが、蜂起は鎮圧されてしまった。
- D. ポーランド王国は、1795年の第3回ポーランド分割によってプロイセン、ロシア、オーストリアの三カ国に残りの領土をすべて分割された。

〔Ⅲ〕 次の文章を読み、空欄(ア～ウ)にあてはまる語句を解答欄に記入しなさい。また、下線部(1～7)に対応する設問(1～7)に答えなさい。

1955年4月18日、インドネシアの首都ジャカルタから120km離れた避暑地バンドンに、インドの 首相、中国の周恩来首相、エジプトのナセル首相、そしてホスト役としてのインドネシアの 大統領という戦後世界の新興国を率いた歴史的指導者をはじめ、29カ国のアジア・アフリカ諸国の指導者が一堂に会した。このバンドン会議(アジア・アフリカ会議)は、戦後という時代を方向付けた重大な会議であった。世界史的に言えば、1949年の共産中国の成立以来、初めて中華人民共和国が国際会議に登場した会議であった。今日ではあまり違和感はないが、米国をはじめ多くの国がまだ台湾の蒋介石政権を中国の正統政権としていた時代に、台湾が呼ばれない会議ということ自体が新たな局面を象徴していた。事実、周恩来が乗るはずだった飛行機が香港で爆薬を仕掛けられ、ボルネオに墜落するという事件が起き、周恩来は命がけの参加となった。

バンドン会議の主役は、インドであり中国であった。伏線となったのは、前年の中印首脳会談であった。1949年の中華人民共和国発足以来、「アジアの植民地解放のための武力闘争」を支援してきた中国が対話路線に転換し、1954年、周恩来と の間で「平和五原則」(領土主権の尊重、相互不可侵、相互内政不干渉、平等互惠、平和共存)を確認したことが転機であった。これを受けて、1954年4月末、 で開かれた「 会議」に参加した5カ国(インド、インドネシア、パキスタン、ビルマ、セイロン)が「アジア・アフリカ各国間の協力・相互利益、友好の推進」を狙いとする「アジア・アフリカ会議」の必要性を確認したのである。

寺島実郎「問いかけとしての戦後日本」より抜粋

設問 1 下線部(1)の周恩来にかんする次の記述から誤りのあるものをひとつ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。

- A. 周恩来は 1936 年の西安事件において、蒋介石に一致抗日を説得したことでその名を広く知られるようになった。
- B. 周恩来は「四人組」の一人として大躍進政策を推進し、製鉄・製鋼と農業生産の大規模な増産に成功した。
- C. 周恩来は、田中角栄首相とともに 1972 年「日本国政府と中華人民共和国の共同声明」に署名し、日本との国交を正常化させた。
- D. 周恩来の死を哀悼する人びとの集会は天安門前で抗議行動へと展開したが、当局はこれを「反革命」とみて鎮圧した。

設問 2 下線部(2)のナセルとエジプトの近代にかんする次の記述から正しいものをひとつ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。

- A. 自由将校団のリーダーだったナセルは民族主義的な風潮に後押しされて挙兵し、オスマン帝国から独立を勝ち取った。
- B. ナセルがスエズ運河の国有化を宣言したのに対して、アメリカ・イギリス・フランスが軍事行動を起こした。
- C. ナセルはパン=アラブ主義を主導し、シリアとともにアラブ連合共和国を樹立させた。
- D. 急死したナセルの次に大統領となったムバーラクは、強権的政治を続け、2011 年のいわゆる「アラブの春」で打倒された。

設問 3 下線部(3)の 29 カ国に含まれない国を次の選択肢からひとつ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。

- A. アルジェリア
- B. 日本
- C. フィリピン
- D. リビア

設問 4 下線部(4)の第二次世界大戦後の世界では、ソ連を中心とする社会主義・共産主義諸国の「東側陣営」とアメリカの主導する「西側陣営」の対立が国際関係を大きく左右し、その対立は、地域的あるいは民族的に一体と考えられるところを分裂させることもあった。その分裂の例にあたらないものを次の選択肢からひとつ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。

- A. アイルランド
- B. ドイツ
- C. イエメン
- D. ベトナム

設問 5 下線部(5)の方針を転換し、1972年に米中共同声明を発表したアメリカ大統領の名前を、解答欄に書きなさい。

設問 6 下線部(6)の中印関係に関連する次の記述(i)(ii)について、両方とも正しければAを、(i)のみ正しければBを、(ii)のみ正しければCを、両方とも誤りである場合にはDを、解答欄にマークしなさい。

- (i) チベットの帰属をめぐる住民投票を機に中印関係は悪化し、1962年から3度にわたって軍事衝突が起きた。
- (ii) 中国から技術協力を得てパキスタンが1974年に核実験を成功させたのに対抗し、その後インドも核実験を行った。

設問 7 下線部(7)のビルマ(ミャンマー)について述べた次の記述のうち、誤りのあるものをひとつ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。

- A. イギリスは3回にわたる戦争でビルマの王朝を滅ぼし、インド帝国に併合した。
- B. アウン＝サン將軍は、日本軍と協力してビルマからイギリス軍を追い出すことに成功した。
- C. 日本の軍政に懐疑的になった僧侶たちはタキン党を結成し、農村で抗日運動を組織した。
- D. アウン＝サンの長女スーチーは、民主化運動に関わり、軍部に自宅軟禁を強いられた。

〔Ⅳ〕 文学作品は、その時々政治や社会状況を映し出す鏡だとされることがある。たとえば、フランスの文学史の流れをみると、19世紀の前半に「ロマン主義」、半ばに「写実主義」、後半には「自然主義」と称される文学作品群が登場するが、それぞれが時代状況を反映したものだ。この点を踏まえて、以下の問いに答えなさい。

フランスの「ロマン主義」と「自然主義」を代表する作者には、シャトーブリアン（ロマン主義）とゾラ（自然主義）がいるが、まず、両者の作品を一つずつ挙げたうえで、ロマン主義と自然主義の特徴をそれぞれ説明しなさい。そして、そうした特徴の作品群がなぜその時代に登場したのか、時代背景と関連づけて論じなさい。なお、以下の語句をすべて用いて、160字以上200字以内で答えること。解答は横書きとし、カッコや句読点は1マス1文字に数え、また数字を用いる場合には1マス2字とする。

科学技術、個人の感情、社会の矛盾、フランス革命

